

富士川支流の早川・小原島の貝化石と身延自然博物館を訪ねて：中部支部巡検報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中島, 敏博 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025459

富士川支流の早川・小原島の貝化石と 身延自然博物館を訪ねて

— 中部支部巡検報告 —

中 島 敏 博*

中部支部巡検会として、昭和62年11月29日(日)山梨県身延町を訪れた。マイカー方式により、8時20分清水インター前に集まった後、52号線を北上～身延自然博物館～大城溪谷～夜子沢～遅沢～早川～小原島等を廻って午後5時半清水に帰着した。案内をお願いした久我直人会員を含め11名が参加した。

身延町立自然博物館

小規模ながら地学、生物関係の標本が多数展示され、身延の自然の生い立ちや姿を物語ってくれる。地学関係では大城溪谷の各種岩石標本、身延付近の化石(タマキガイ、イタヤガイ、ウニ、サメの歯、イワシクジラ等)、その他、砂金や岩石顕微鏡写真等もあり、地学に興味引かれる内容となっている。生物関係では植物標本や動物の剥製が多数あり、中でもブッポウソウの剥製に目を引かれた。静岡市にもこんな博物館が欲しいものである。

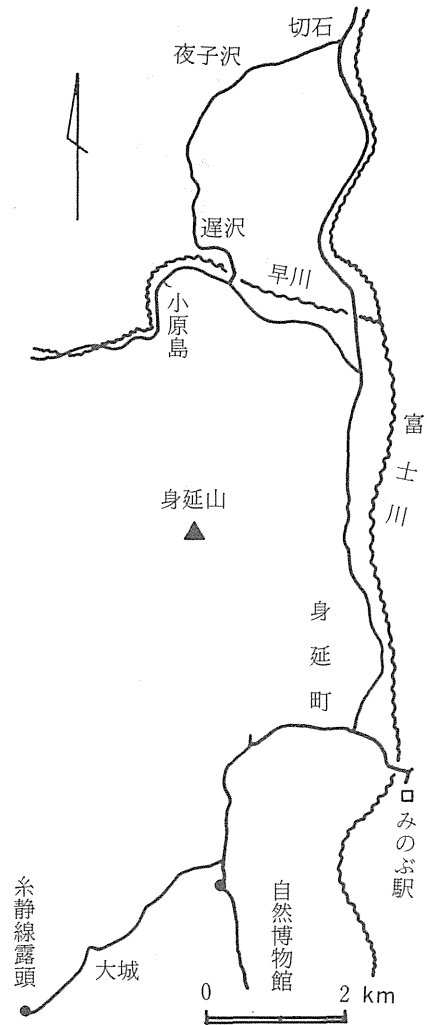
大城溪谷

52号線小田船原の手前の三叉路を左折し、4.5 km程大城川を上る。赤岩橋西さらに200 m程の北側、川の左岸に糸静線の露頭が見えた。断層面はほぼ70度前後傾斜している。東側は微細褶曲した粘板岩や砂岩主体の瀬戸川系、西側は緑色凝灰岩、凝灰角礫岩主体の御坂系である。

河原にはチャートや千枚岩、輝緑凝灰岩等の転石がごろごろしており、溪谷上流の古期岩層を想像させる。

含化石遅沢砂岩層

52号線切石の集落に入って夜子沢川の左岸を左折、1.5 km上流の道路下5 m程の右岸。砂層中に貝化石を発見。タマキガイやツキヒガイ、その他巻貝を多数含んでいる。ここでの砂岩は3～5 mmの細礫を含み、指で強く押すとかける



巡検コース略図

* (私立) 焼津高等学校



写真1 大城溪谷の糸魚川—静岡構造線露頭



写真2 小原島の貝化石層
中央はカメラキャップ

位もろい。ここより 2.5 km 程南、遅沢の集落に近い曙川支流の沢に貝化石を含んだ転石が見られた。ハンマーでは容易に割れない程硬い。この地域は曙向斜の東縁辺部に当たるが、さらに向斜軸に近く、礫を含まない岩が硬いように思われる。

小原島の貝化石層

早川の右岸、小原島の県道沿いに高さ 40 m、幅 40 m 程の礫質砂岩の岩壁があり、タマキガイ、イタヤガイ、フネガイ等の化石がぎっしり入っている。ここは県の天然記念物に指定されているため、化石の採集はできなかった。

好天に恵まれ早川溪谷の紅葉は素晴らしかった。車の故障一台、沢にて眼鏡を落とした者二人等、ハプニングもあったが、夜子沢で砂岩を砕いた断面に直径 15 cm 大のツキヒガイを見つけた時は 2000 万年の眠りを目覚めさせたというような化石採集の醍醐味を味わった。